



万馬券の米粉うどん 12/4

静内稲作振興会（日蔭由昭会長）では、地産地消の推進と町の特産品の生産、地元産特別栽培米「万馬券」のPRを目的に、今年から万馬券を使った米粉事業に取り組んでいます。

すでに米粉を使った食パンやクッキーなどが「手作り工房さくら」で販売されており、新たに「米粉うどん」の製品化を目指しています。

詳しくは、JAしずない生産課（0146-42-1051）までお問合せ下さい。



NHK 出前授業 12/1

カメラの操作体験や放送メイキングのVTR視聴などを行う「NHK出前授業」が歌笛小学校で行われ、子どもたちは、放送局の仕事や公共放送の役割を学びました。

NHK室蘭放送局では、昨年からの社会貢献活動などの一環として出前授業を行っており、子どもたちは高級外車1台分もする大型カメラに興味津々。子どもたちがリポーターやカメラマンになって発表や撮影が行われ、友だちがテレビに映るたびに歓声をあげていました。



地デジアドバイザー 11/24

地上デジタル放送の完全移行に向けて、テレビ難視聴世帯の解消に、町内の電器店14店が「地デジアドバイザー」としてボランティアで協力することになり、アドバイザーの腕章などが渡されました。

町内では今年から地デジ放送が本格的にスタートし、難視聴地区が新たに28地区（141世帯）あることが国の調査で分かっており、電器店と町が連携し、難視聴地区の受信情報などを共有しながら、デジタル化への対応が進められます。

ニュースフラッシュ

まちのできごと、話題をお届けします。



第28回町民と隊員の音楽の集い 12/5

町自衛隊協力会、陸上自衛隊静内駐屯地の主催による『第28回町民と隊員の音楽の集い』が町公民館で行われ、町民と自衛隊員が音楽を通して交流を深めました。

集いには、陸上自衛隊第7音楽隊のほか、静内染退太鼓、千歳機甲太鼓などが出演し、会場に集まった約500人の聴衆は、迫力ある演奏と生き生きとした音色に耳を傾けながら、楽しい時間を過ごしました。



みついし牛枝肉共励会 12/1

みついし牛の資質改善やブランド確立を目的とした『第5回みついし牛枝肉共励会（みついし農協主催）』が東京食肉市場で開かれ、町外の生産者を含む19戸36頭が出品され、畑端博志さん（三石本桐）の出品牛が最優秀賞に輝きました。

3日には、みついし農協で入賞者への表彰式が行われ、畑端さんは「みついし牛は、市場から脂質がとても良いといわれています。皆さんもぜひ、味わっていただければ」と話していました。



第4回新ひだか町エプロンピック 11/29

道のスポーツ100選にも選ばれている女性によるスポーツの祭典「第4回新ひだか町エプロンピック（町女性団体連絡協議会主催）」が、町静内体育館で開かれました。

町内の各自治会などから116名が参加し、開会式にはエプロン姿で登場。3チームに別れて14種目で競い合い、スポーツ・レクリエーション競技を通じて、地域の連帯感を高めるとともに友情の輪を広げ、さわやかな汗を流しました。



災害時応急対策協定書締結 11/19

町と町内の電気工事業4社でつくる静内電友会（鈴木正春会長）が、地震や津波、風水害、大火災などの大規模災害によって町内の公共施設などで電気設備や消防設備などに故障が発生した場合、同会が点検や復旧作業を行う協定を結びました。

町と災害時の協定書を結ぶのは7団体目で、鈴木会長は「電友会を結成してまだ10年ですが、今後も行政への協力と町民への還元を進めていきたい」と話していました。



日高地域意見交換会 12/12

管内各町長など34団体で構成する日高振興局を考える連絡協議会主催の「日高地域意見交換会」が町公民館で開かれ、高橋知事に対し、支庁制度改革の見直しなどを強く訴えました。



しずない海味の市 12/5

地場の海産物や農産加工品をPRし、消費拡大を目指す「2009しずない海味の市」が町観光情報センターで開かれ、新巻鮭やタラコ、もち、漬物などを買い求める人でにぎわいました。



男女共同参画セミナー 11/25

みついしふれあいプラザで「男女共同参画セミナー」が開かれ、シニアルネサンス財団北海道本部長の作田和幸氏の「老々助け合いの地域づくりが大切」などの話しに、参加者は熱心に耳を傾けていました。



老人スポーツ大会 11/20

スポーツ・レクリエーション競技を通じて健康保持と親睦・交流を図る「町三石老人スポーツ大会」が、三石スポーツセンターで行われ、静内地区選抜チームも参加し、楽しい一日を過ごしました。